

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた
機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議（第4回）

議事概要

1. 日時：平成28年12月14日（水） 10：00～11：00
2. 場所：合同庁舎4号館4階 共用第4特別会議室
3. 出席者：

丸川 珠代	東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 担当大臣
平田 竹男	内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競 技大会推進本部事務局長
井内 摂男	内閣府知的財産戦略推進事務局長
宮田 亮平	文化庁長官
松永 明	内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）
森本 浩一	文部科学省国際統括官
磯谷 桂介	文化庁長官官房審議官
時澤 忠	総務省大臣官房地域力創造 審議官
吉田 真人	<u>総務省情報流通行政局審議官</u>
下川 眞樹太	外務省大臣官房国際文化交流審議官
山名 規雄	国税庁長官官房審議官
堀江 裕	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長
大角 亨	<u>農林水産省大臣官房審議官（兼食料産業局）</u>
安藤 久佳	経済産業省商務情報政策局長
加藤 庸之	<u>観光庁観光地域振興部長</u>
桃原 慎一郎	東京都生活文化局次長
戸谷 泰之	<u>東京都オリンピック・パラリンピック準備局総合調整部計画 調整担当部長</u>
片山 謙	<u>東京都産業労働局次長</u>
布村 幸彦	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組 織委員会副事務総長

（オブザーバー）

- | | |
|--------|--------------------------|
| 古尾谷 光男 | 全国知事会事務総長 |
| 笹島 晃司 | <u>全国市長会社会文教部長</u> |
| 石田 直裕 | 全国町村会事務総長 |
| 柄 博子 | <u>独立行政法人国際交流基金理事</u> |
| 池原 充洋 | <u>独立行政法人国立文化財機構理事</u> |
| 山下 和茂 | <u>独立行政法人国立美術館理事</u> |
| 平林 正吉 | <u>独立行政法人日本芸術文化振興会理事</u> |

若井 英二 株式会社海外需要開拓支援機構専務執行役員
北川 浩伸 独立行政法人日本貿易振興機構サービス産業部部長
大石 英一郎 独立行政法人国際観光振興機構海外プロモーション部部長

(事務局)

多田 健一郎 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局企画・推進統括官
十時 憲司 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局参事官
清水 幹治 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局参事官

※下線は代理出席

4. 議事要旨

<丸川東京オリンピック・パラリンピック大臣 挨拶>

【丸川大臣】

おはようございます。今日は皆様お忙しい中、そして寒い中、文化を通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議にご出席いただきましてありがとうございます。これまで様々な議論を重ねてきていただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

今年3月にこの会議の中で発表したbeyond2020プログラムについて、認証のプロセスがこの会議において了承を得られますといよいよスタートとなります。

会議にご参画いただいている皆様にはいうまでもないことですが、オリンピックはスポーツ、文化を通じて人々が交流し、その交流の中から互いを尊重し、そして相互に理解を深めることによって、スポーツ、文化、教育を通じて世界の平和を目指すことが、その精神でございます。文化は切っても切れない観点であると同時に、私共の立場からすれば、東京以外の、あるいは競技が行われない地域においてもオリンピックに参画していただく上で非常に重要なプログラムでございます。認証というプロセスは最初の一步だと思っております。認証を受けること、あるいは文化プログラムそのものの意義や価値について、より国民の皆様に深くご理解をいただき、自ら参加しようという機運を盛り上げていくためのさらなる仕掛けについても、今後皆様とともに議論を深め、進めてまいりたいという思いをもっておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

今日は、多くの構成員の皆様からの報告も予定されているということでございますので、情報共有、連携を深め、一体感をもって取り組んでいただけるようによろしくお願いいたします。

<beyond2020 プログラムについて>

・事務局から、資料1-1及び資料1-2「beyond2020プログラムについて」を説明し、

了承。

<各省庁等取組報告>

・関係構成員より、資料2から資料13により各省庁等の取組みを報告。

<意見交換>

【組織委員会】

私どもの方で、公認プログラム、応援プログラムと2つの認証のシステムを発足し、内閣官房の方ではbeyond2020の認証システムが始まるにあたり、よく訊かれるのがどういう関係にあるのかということです。組織委員会としては、先ほどご説明した通り、エンブレムやオリンピック・パラリンピックの名称も含めて使用制限がありますので、スポンサー以外の企業の方々に正式に関わっていただくのが難しい現状があり、それをbeyond2020が全体をカバーしていただいていると説明しているところですが、文化プログラムトータルでどのようなビジョンをもとにやっているのかとよく訊かれるのですが、なかなか答えが難しいというのが率直なところでございます。

今後、課題として内閣官房あるいは、宮田長官がいらっしゃる文化庁、文化庁は先ほど文化情報プラットフォームという形で全体の情報を集約するような構想を提言されていまして、また文化プログラム全体がひとめで分かるような情報や、キャッチコピー的なものがあると説明しやすい、という提案をさせていただきたい。

【文化庁】

農林水産省にご質問なのですが、「日本食」と「和食」と2つの言葉が出てきたのですが、どちらが表現として適切ですか。

【農林水産省】

ユネスコの無形文化遺産としてはご承知の通り「和食」として登録されておまして、その場合一汁三菜を中心とした日本人の伝統的な食文化ということでございます。ただ日本食と考えますと、いわゆる一汁三菜の形に捉われることなく、日本で普通に食されているものはすべて「日本食」と捉えていいのだらうと思っております。私どもも海外に広く発信するような時には「日本食」とよく使いますけど、子供に我が国の食文化を広めていく、継承していく時には食文化として「和食」という言葉を使わせていただいております。

【知財事務局】

私どもはクールジャパンということで、日本の伝統文化から最近ではポップカルチャー系にも焦点をあててやっております。今、それぞれの発表資料を見させていただいて、伝統文化系や芸術系のウェイトが大きいような感じがしていて、もし可能であればもう少しポップカルチャー系にもウェイトを置いていただければと思っております。特にオリンピック選手の中には、メドベージェワ選手（フィギュアスケート選手・ロシア）のようにセーラー月の歌を歌ったりする人もいて、若い世代はそういうところの関心が高いのかと思います。文化庁などでイベントをやる時に、もちろんマンガ・アニメの要素も入っていますけれども、もう少し入れていただけるといいと思います。

【経済産業省】

ポケモンを見ている世代が2020年にアスリートとして活躍されると仰られた。歌舞伎と同じようにポケモンの最新モンスターの名前を知っていないと対応できないという時代になっているのだらうと思います。

<平田事務局長より総括>

【平田局長】

今日はお忙しいところありがとうございます。まず、このbeyond2020の体制ですが、今年の春に、東京都と一緒にやっていくということが原点であります。今日この点を事務局から説明していなかったのも、改めて皆さんに共有させていただきます。

私たちは組織委員会ができないところを補うためにやっております、組織委員会には公認・応援プログラムをどんどん世の中に広めていただきたいのですが、それ以外のところがどうしても必要だということで、東京都と政府で立ち上がったのが、このbeyond2020プログラムです。組織委員会の公認・応援プログラムとbeyond2020プログラムが張り合うようなことはあってはならないことで、そこは関係者で合意形成ができているものと思っております。その上で、布村副事務総長からもありましたが、これからどのように全体像を見せていくかというのは、今準備の段階でいろんなことが報道でも言われていますけれども、宮田長官はじめこの会議の皆さんと連携して、いろんなことが一巡したところで打ち出していきたいと思っております。

この体制になって3年経ち、だいぶ動きがでてきました。先ほど障害者芸術の話が出ましたが、京都のスポーツ・文化・ワールドフォーラムにおいても障害者芸術が位置付けられておりましたし、そもそも「オリパラ」という言葉もこの3年間でだいぶ定着したと思っております。農業についても、和食レシピを言う前に、国産の食材を使わなければなら

いということについても連携も進んでいますし、何よりも観光は2020年の訪日外国人4000万人達成に向けて、政府一丸となって取り組んでいます。その中で、例えば文化財について、外国人に魅せる文化財保護行政も重要で、観光庁、文化庁、また政府全体で2020年に向けて、迎賓館の開放等も含めて進めていければと思っております。

政府の中の悩みとして、私たち内閣官房は事業実施のためではなく、関係省庁を調整するためにあるわけですが、なぜか文化パートが内閣官房の自分のところにおりてきておまして、その状況を踏まえ、文化庁、外務省、国際交流基金が大きなステークホルダー、中心プレイヤーとしてあって、ここをどう連携させていくかが重要です。閉会式のコンテンツであった安倍マリオじゃないですが、世界ではクールジャパンが日本のイメージになってきています。文化庁とクールジャパン行政がどのように連携していくかが重要です。メインプレイヤー間の連携を進め、来年には、政府、東京都、組織委員会、その他関係者の推進体制もより強固なものとしていきたいと思っております。

この会議を通じて、いろいろなことが整理できましたこと、皆さんに感謝いたします。また各省 beyond2020 プログラムの認証ができるようになりますので、どんどん認証を進めていただいて、ぜひ機運醸成につなげていただければと思っております。本日はありがとうございました。

・閉会